
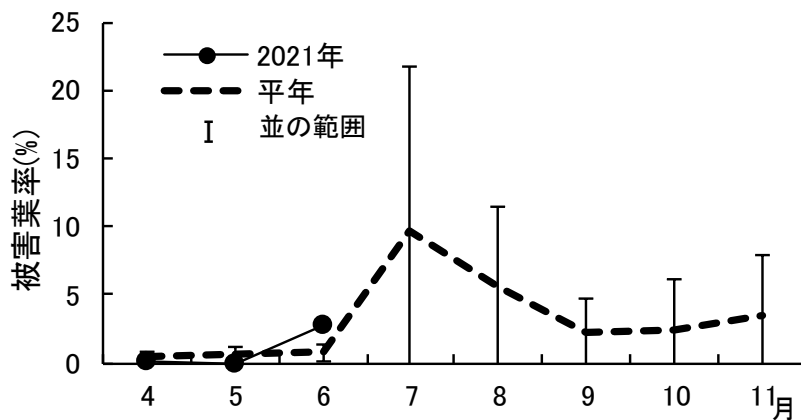
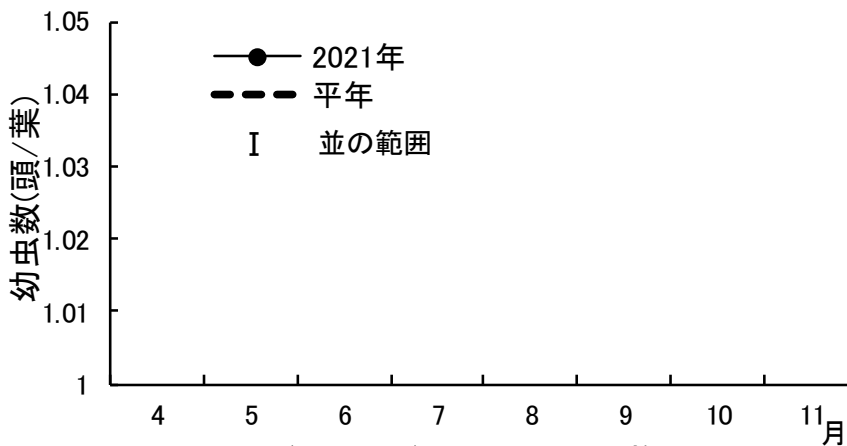



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

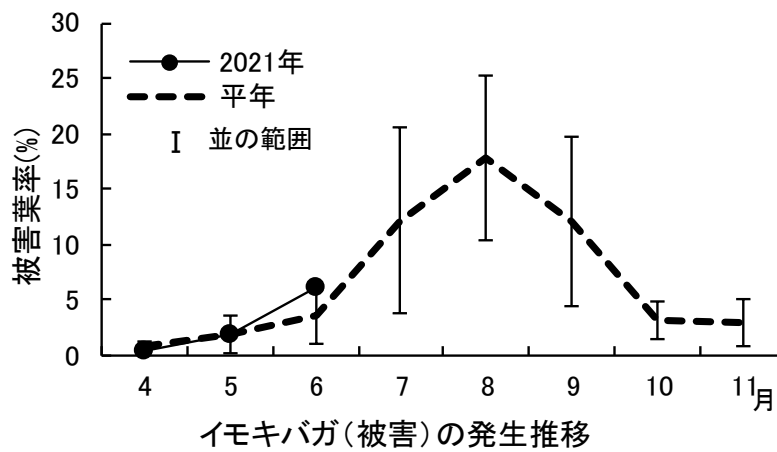
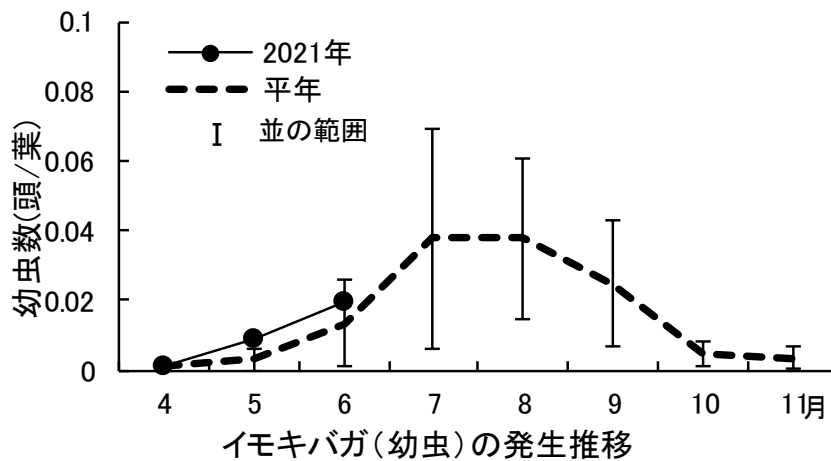


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



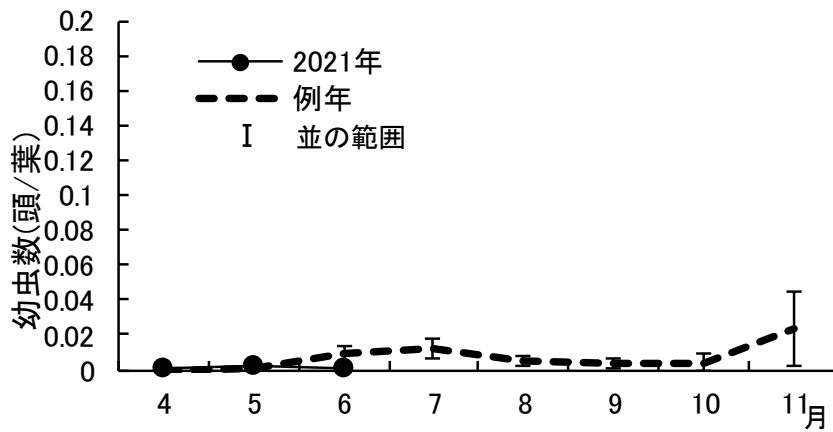
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

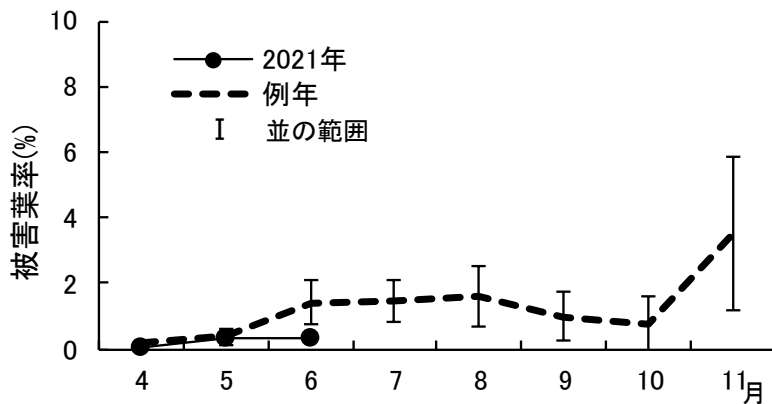
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	6 月の発生量 (例年比)	—	
予報	6 月からの増減傾向	—	
	7 月の発生量 (例年比)	—	

予報の根拠

調査結果



トリバ類(幼虫)の発生推移



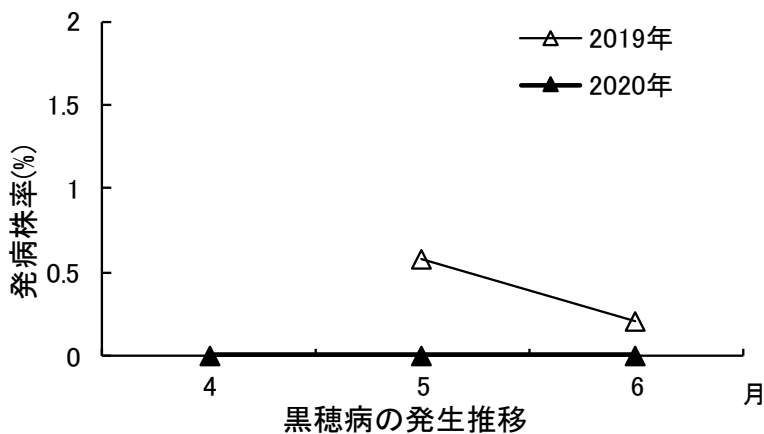
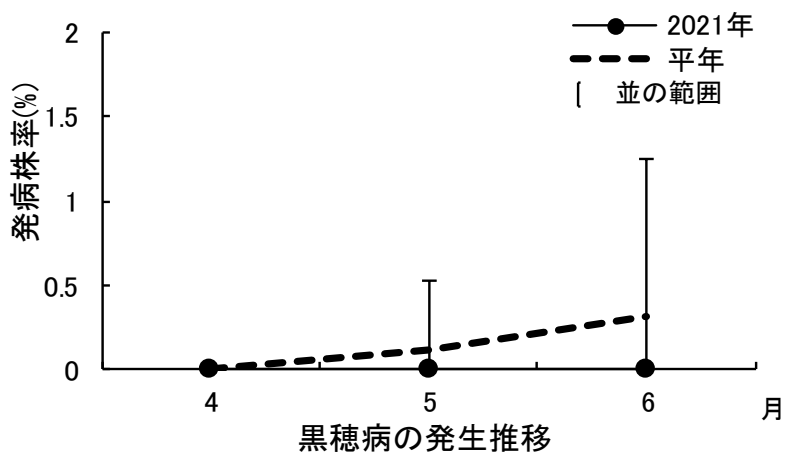
トリバ類(被害)の発生推移

防除のポイント


発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

作物	さとうきび		地域	沖縄本島
病害虫名	黒穂病			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	-		
	7 月の発生量 (平年比)	-		
予報の根拠				

調査結果

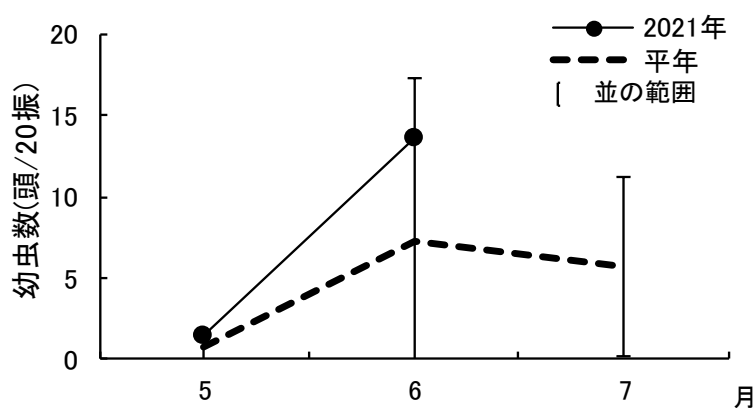


防除のポイント

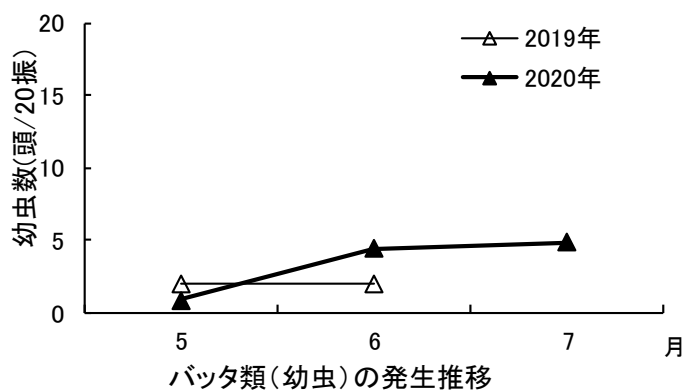
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↘	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・病害虫防除員の報告 (タイワンツチイナゴ) : 多発生 (伊江村)

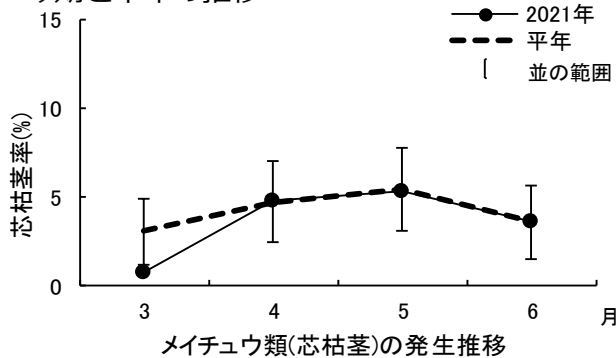
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

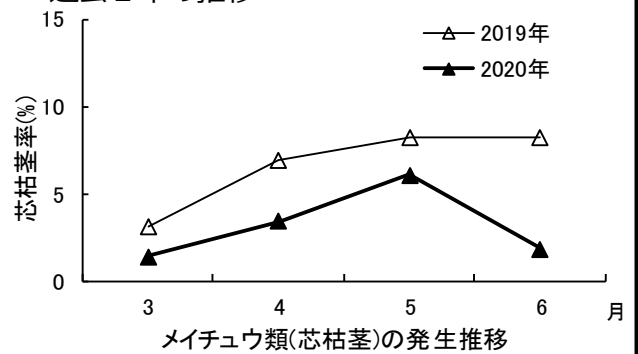
作物	さとうきび	地域	沖縄本島	
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)			並
予報	6 月からの増減傾向			—
		7 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠				

調査結果

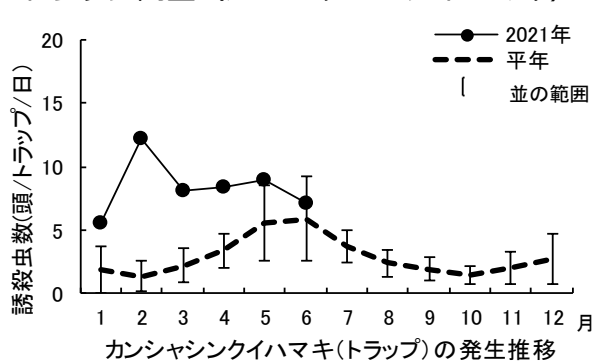
今期と平年の推移



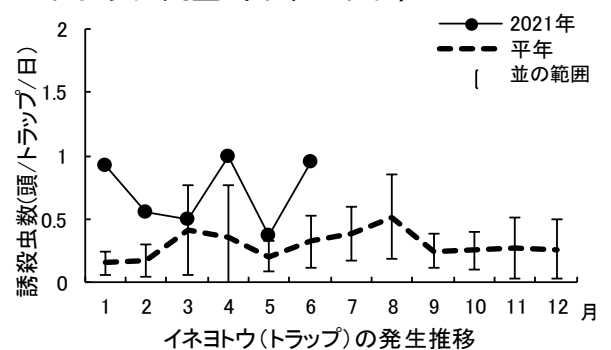
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)




トラップ調査 (イネヨトウ)



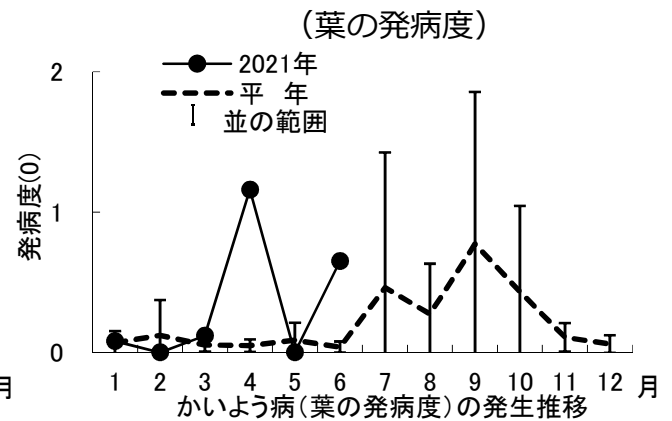
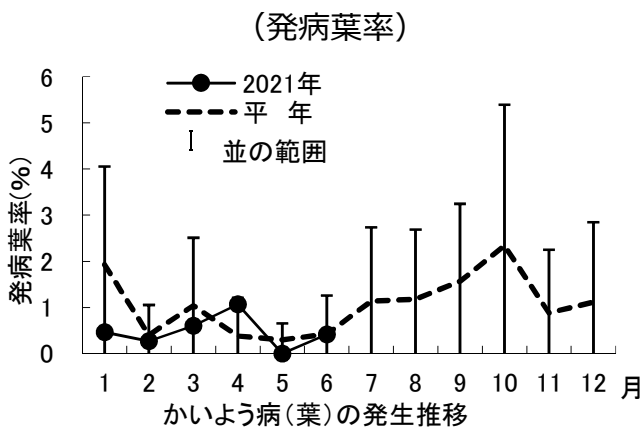
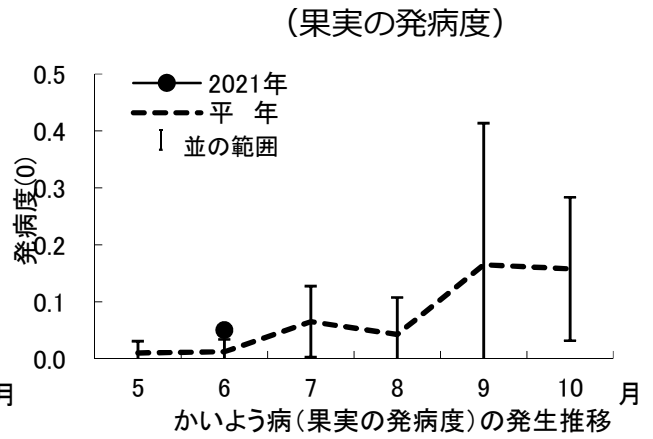
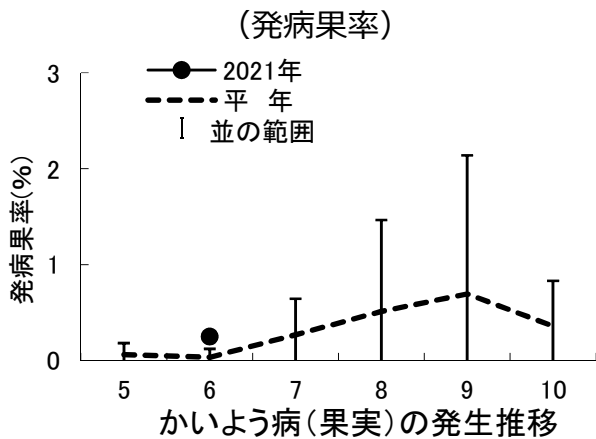
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、84% (63/75頭) がカンシャシクイハマキ、16%(12/75頭)がイネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員の報告 (メイチュウ類) : 多発生 (久米島町)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

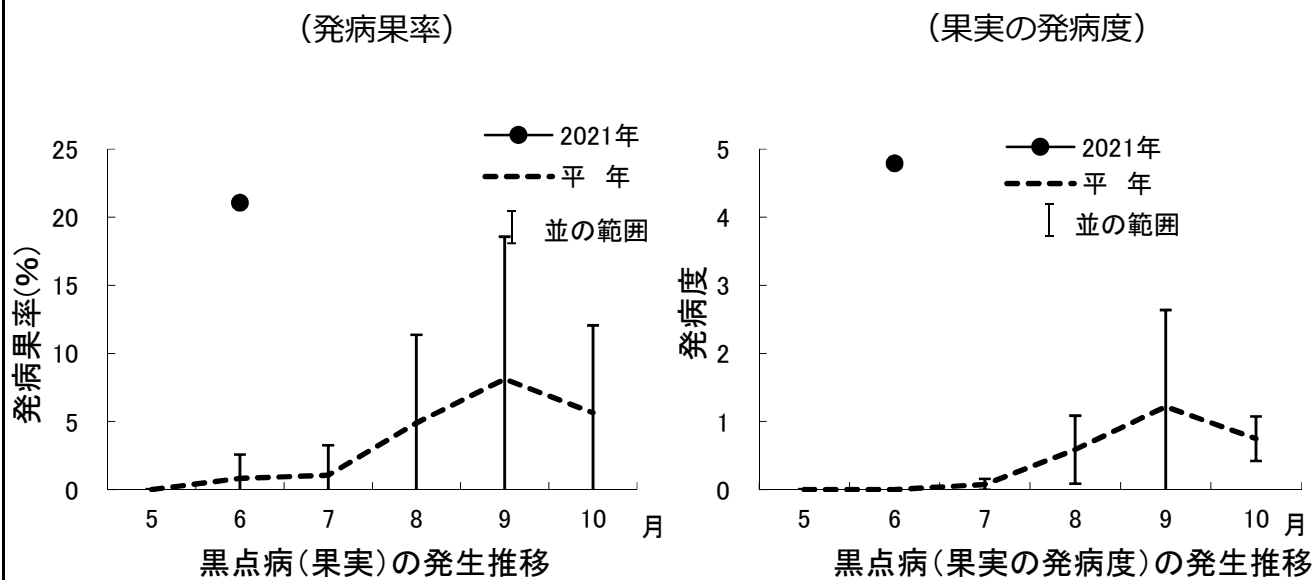


防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	多	
予報	6 月からの増減傾向	→	
	7 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→） 今後 1 か月の降水量が平年より並か多い見込み	

調査結果




- ・ 発生ほ場率：75%（平年9.8%）

防除のポイント

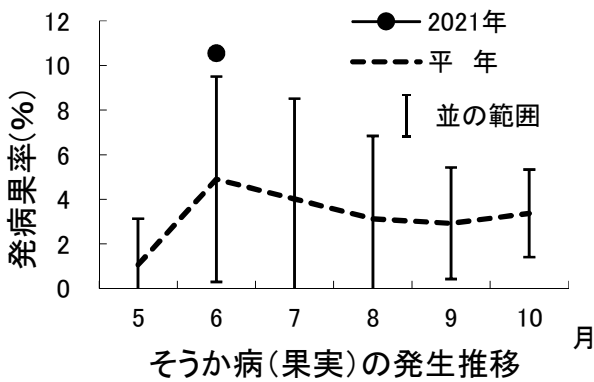
- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。



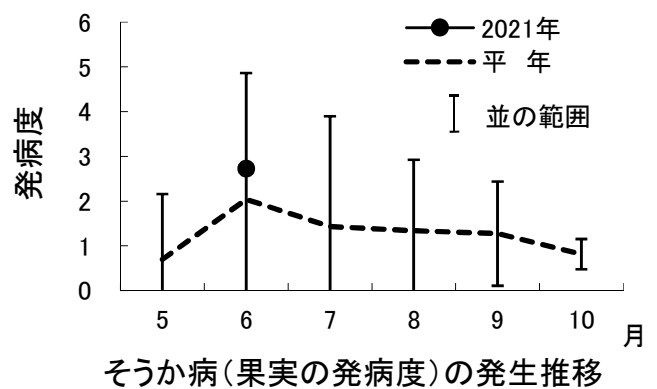
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
	7 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

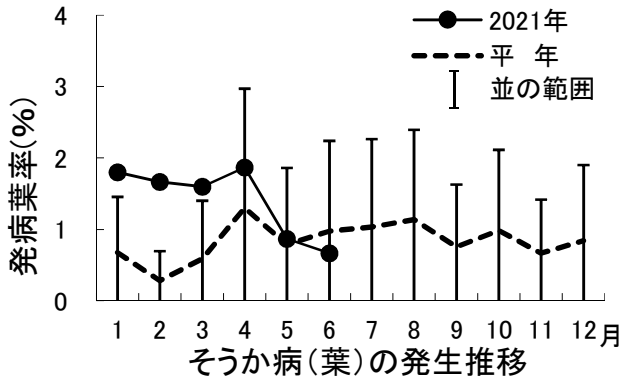
(発病果率)



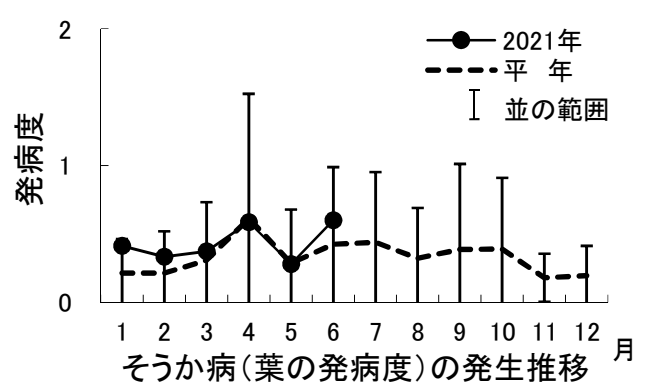
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)




・一部ほ場で多発した

防除のポイント

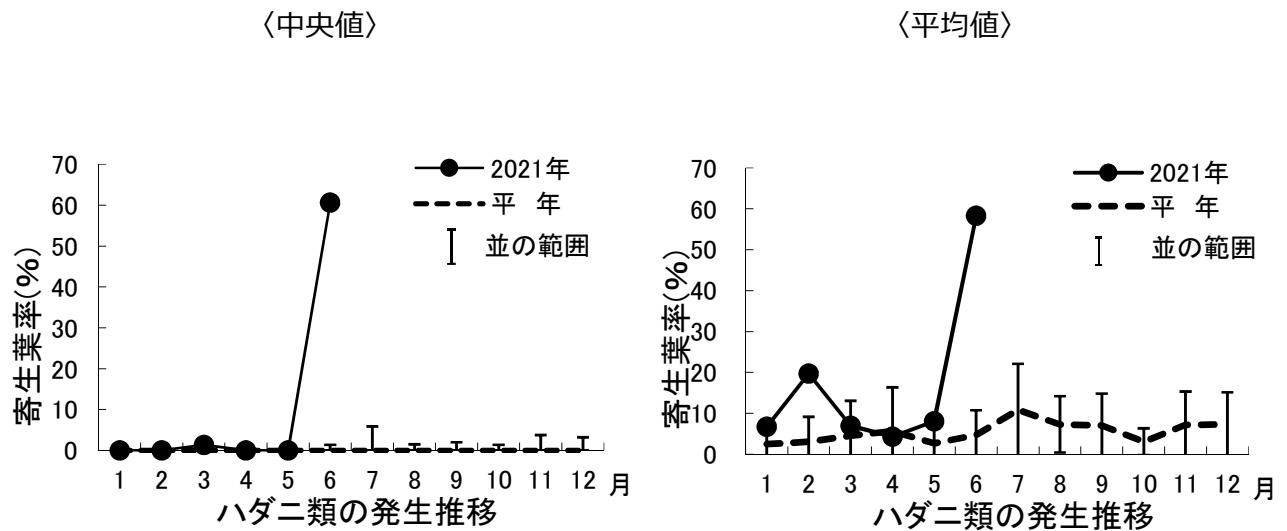
・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果




・ 発生ほ場率：100%（平年値：31.7%）

防除のポイント

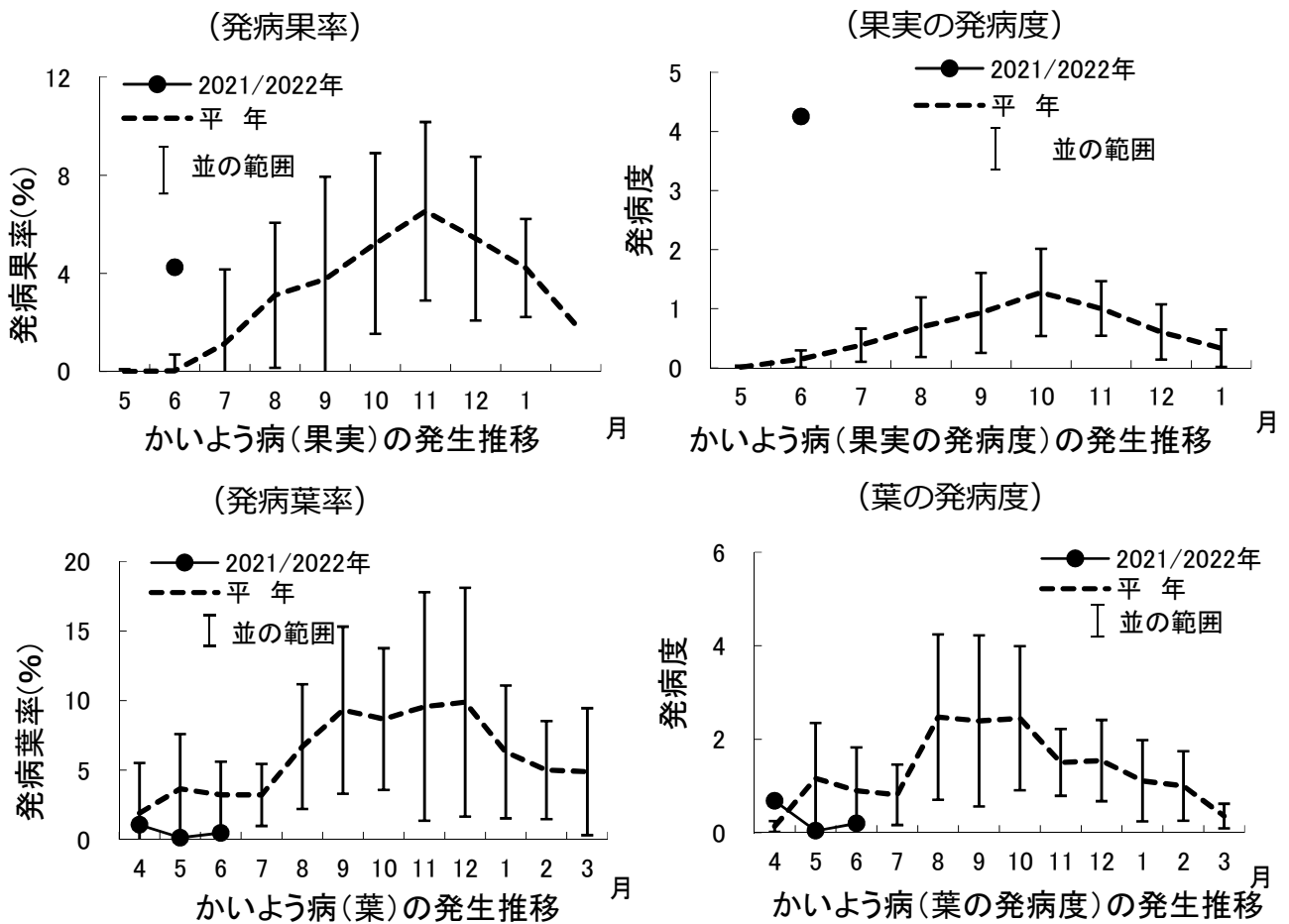
・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
		7 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の降水量が平年並か多い見込み	

調査結果




防除のポイント

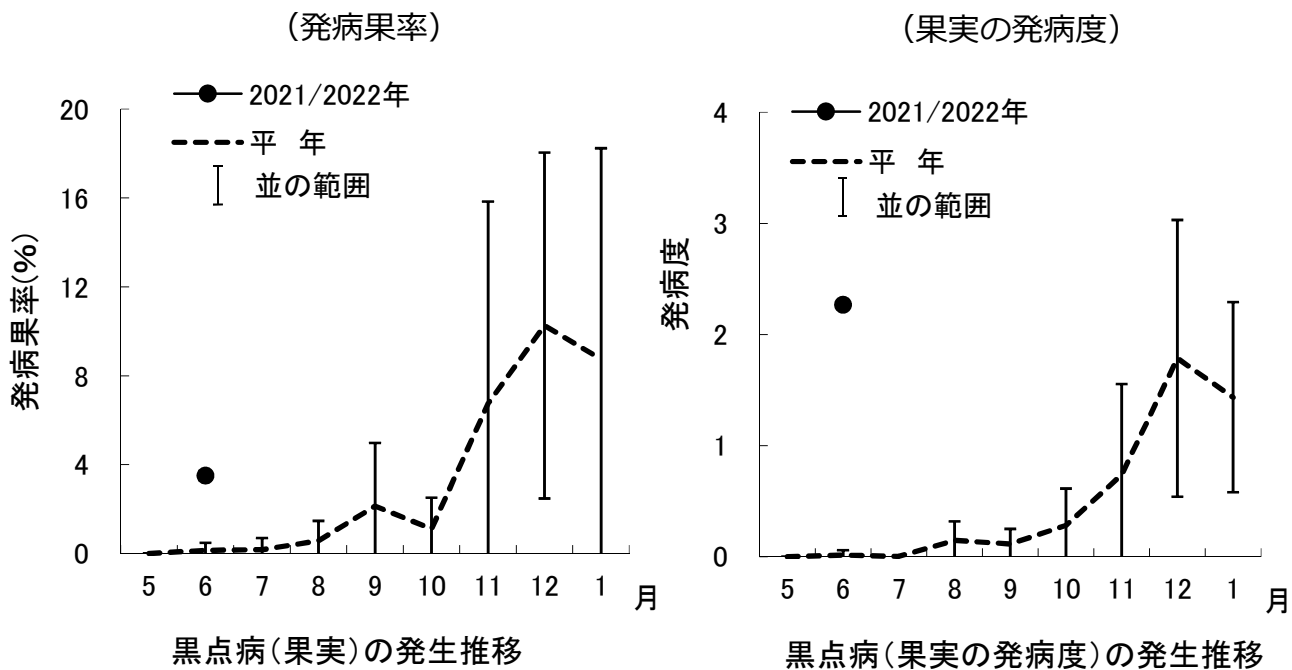
- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

被害葉→



作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 今後 1 か月の降水量が平年並か多い見込み	


調査結果



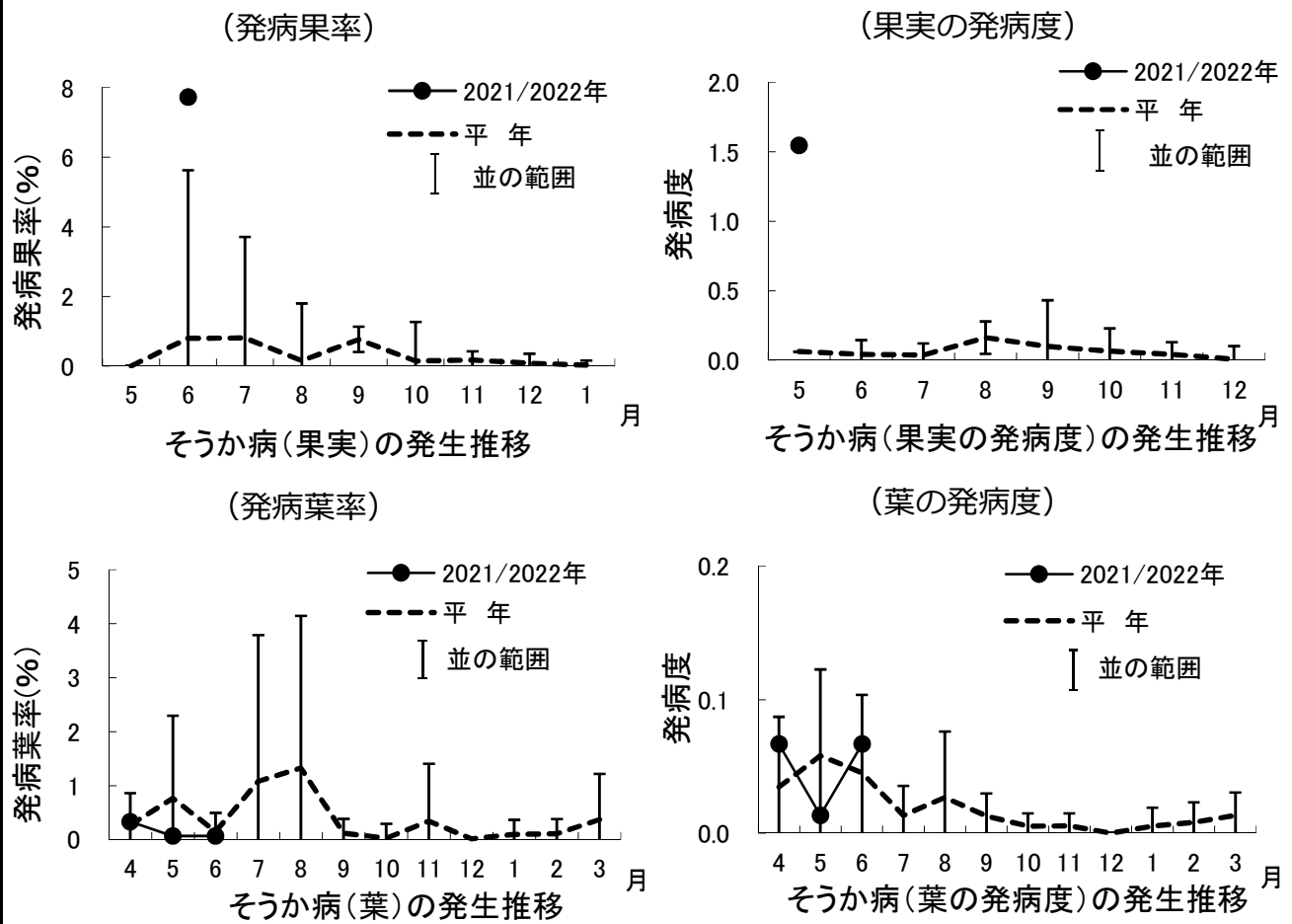
- ・ 発生ほ場率 : 40.0% (平年5.1%)

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多	
予報	6 月からの増減傾向	→	
		7 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→) 今後 1 か月の降水量が平年並か多い見込み	

調査結果




防除のポイント

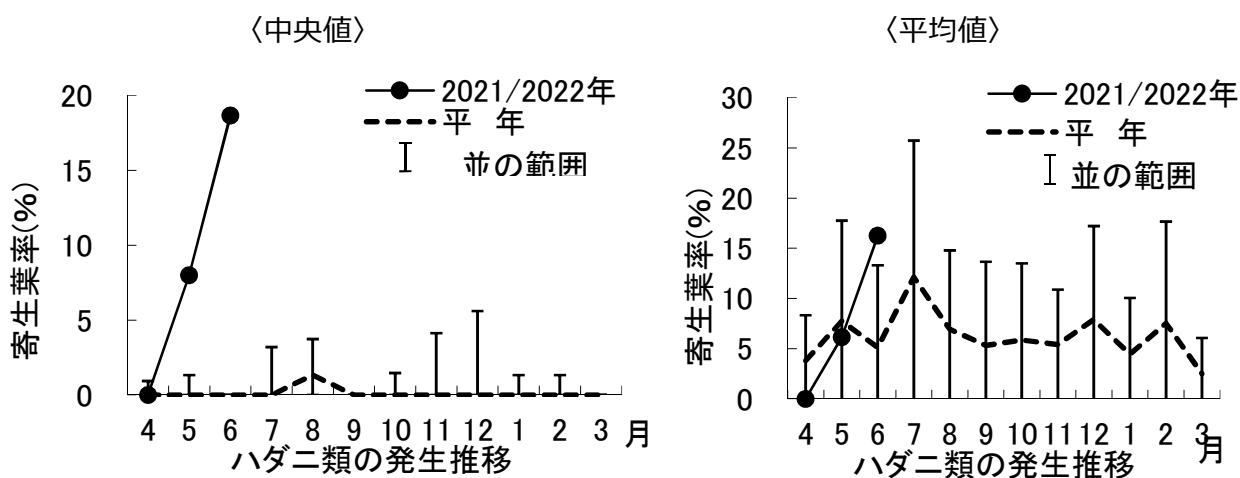
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗） 今後 1 か月の降水量が平年並か多い見込み	

調査結果




・ 発生ほ場率：60.0%（平年値：26.0%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



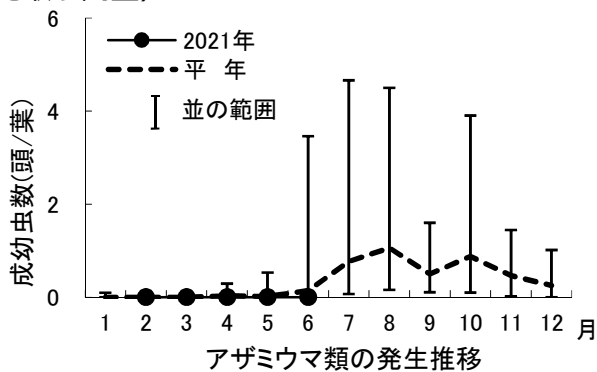
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

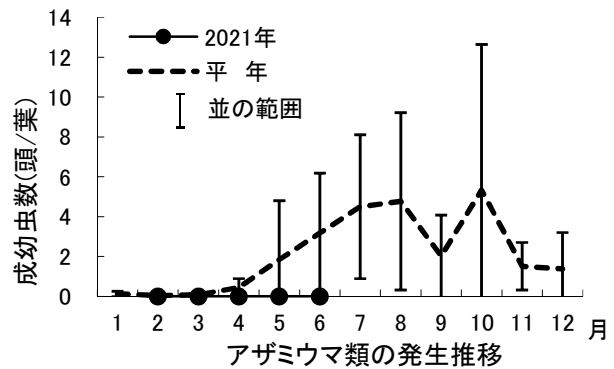
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

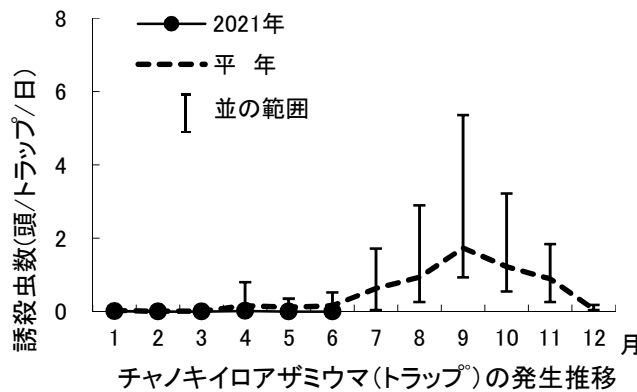


〈平均値〉

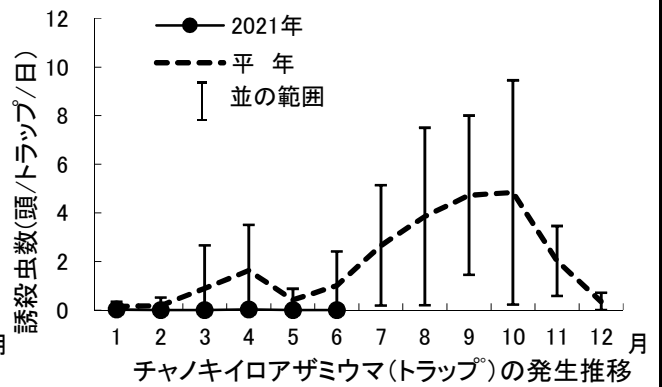


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈平均値〉




防除のポイント

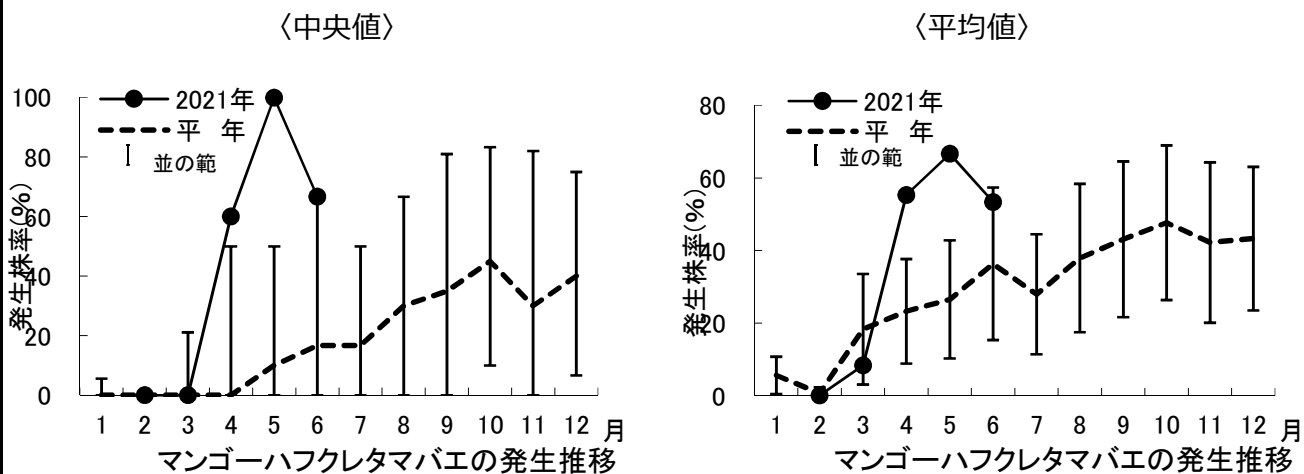
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島	
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)			並
予報	6 月からの増減傾向			↓
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果




・ 発生施設率 : 60.0% (平年値 : 55.4%)

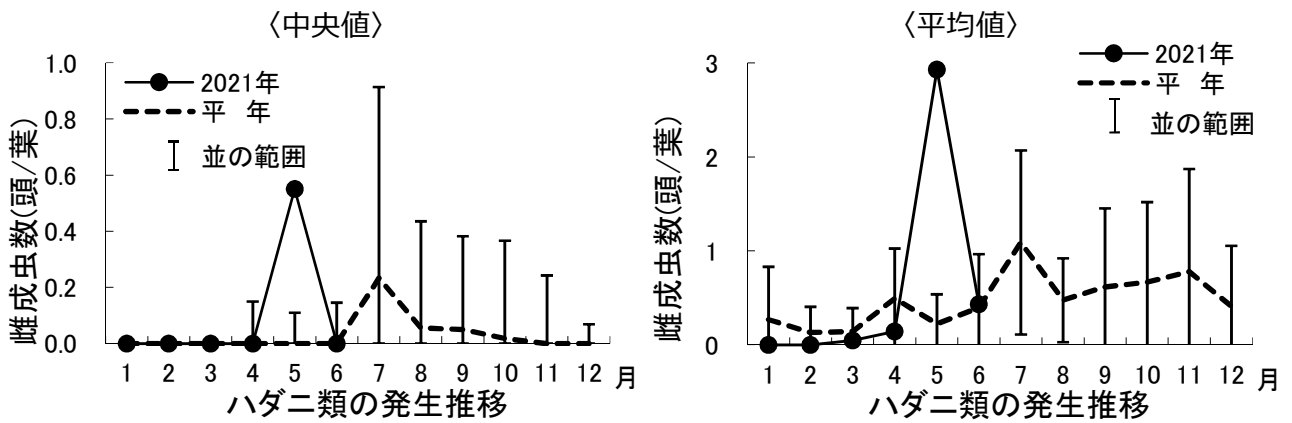
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。



作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：25.0% (平年値：47.1%)

防除のポイント

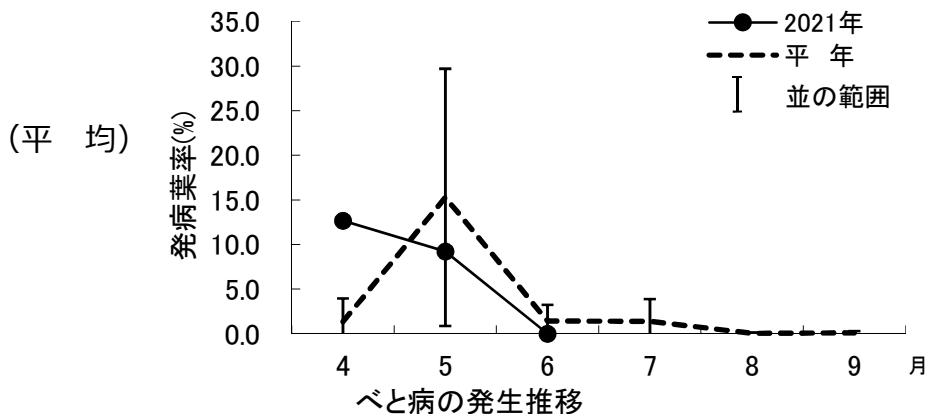
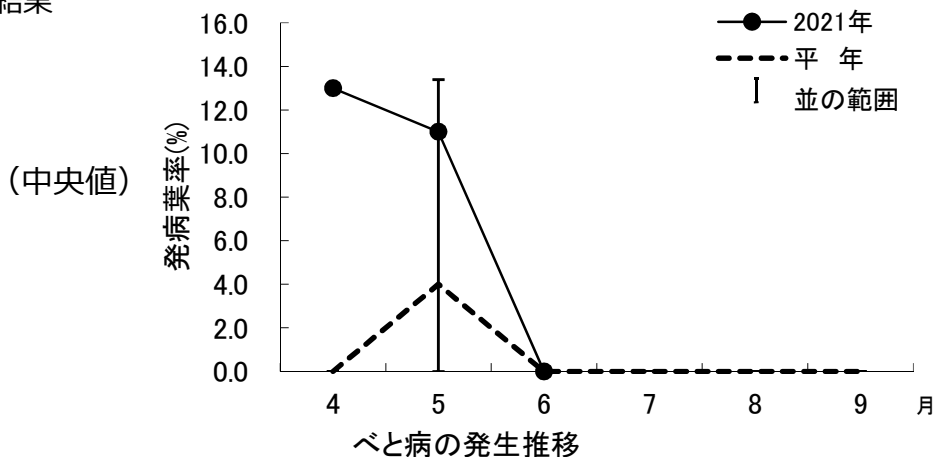
- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	べと病		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	6 月からの増減傾向	→	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



・発病ほ場率 0.0% (平年 26.0%)

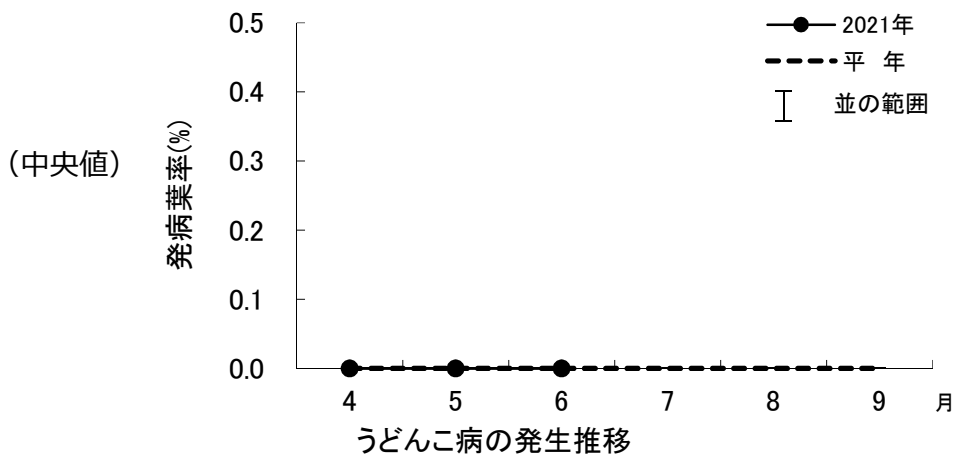
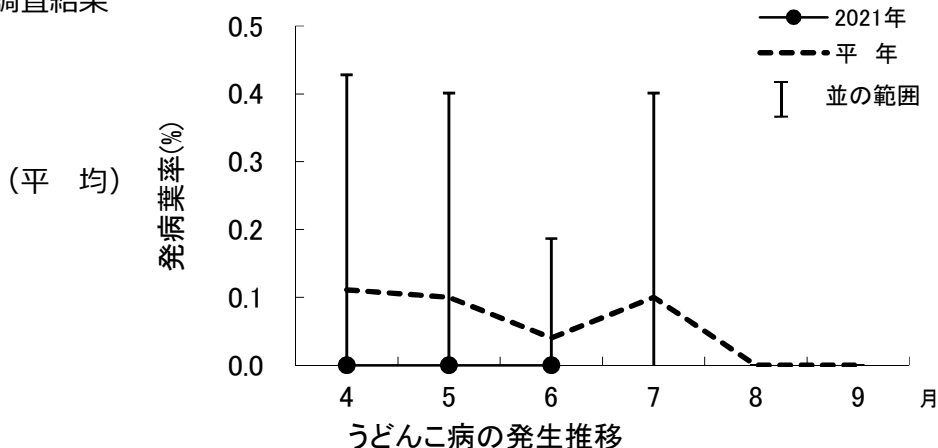
防除のポイント

- ・気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・適正な施肥管理を行う。



作物	ヘチマ		地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		


調査結果



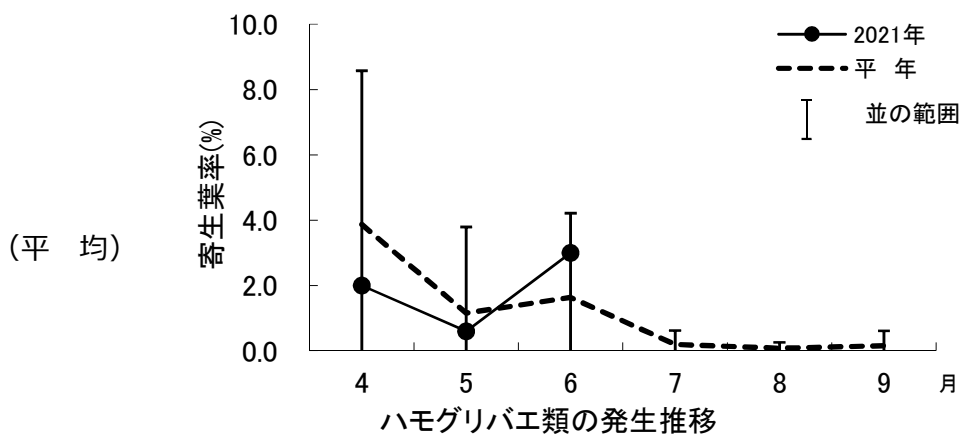
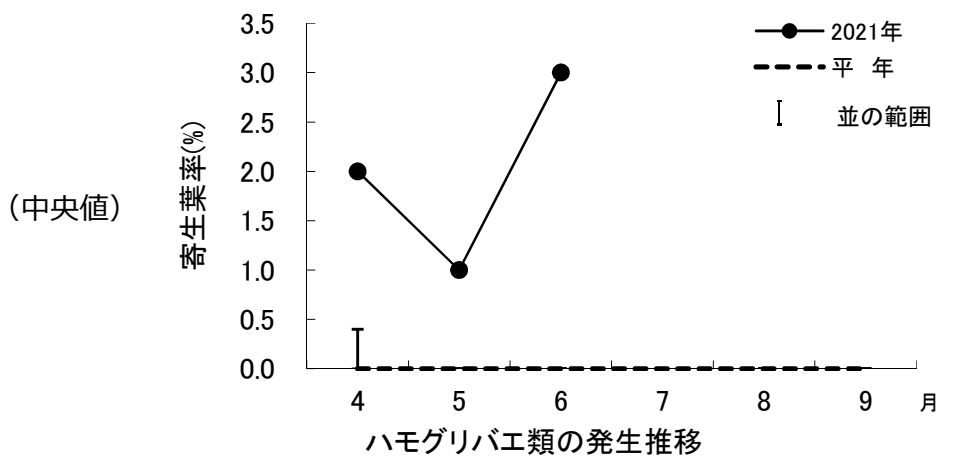
・発病ほ場率 00.0% (平年 2.0%)

防除のポイント

- ・下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハモグリバエ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	6 月からの増減傾向	→	
		7 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	


調査結果

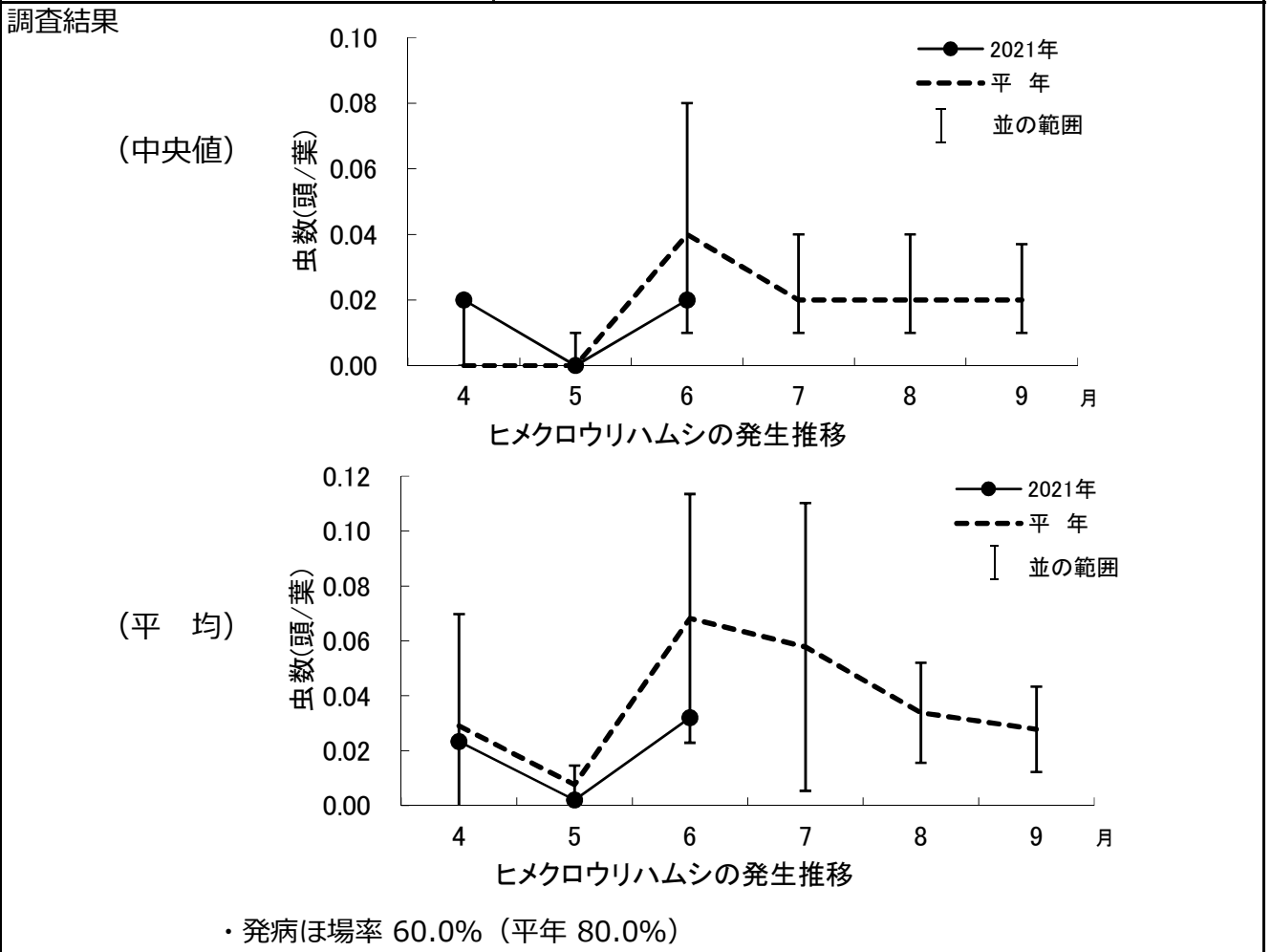


・発病ほ場率 60.0% (平年 20.4%)

防除のポイント


- ・本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。

作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	ヒメクロウリハムシ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

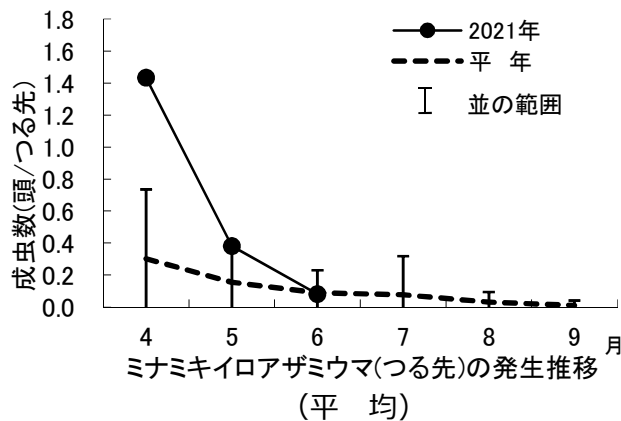
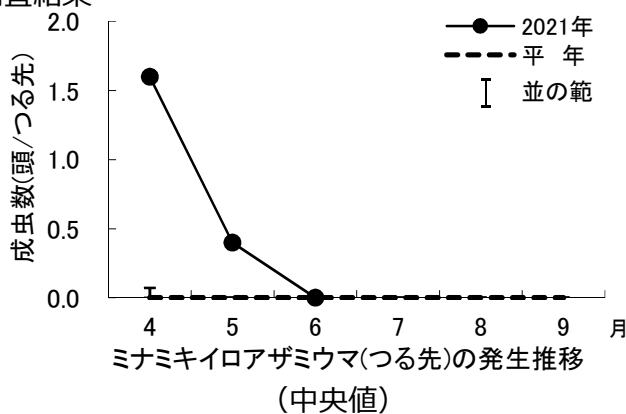


防除のポイント

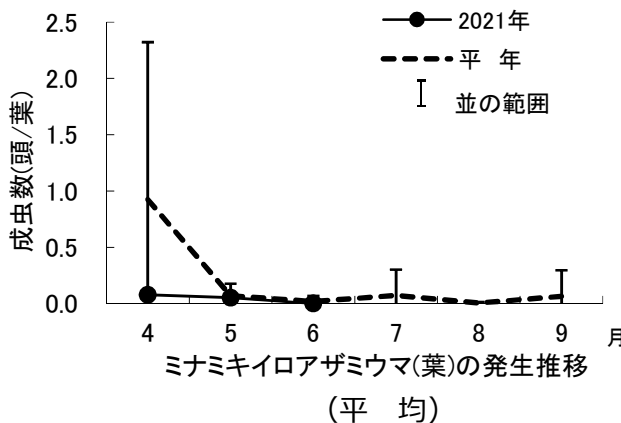
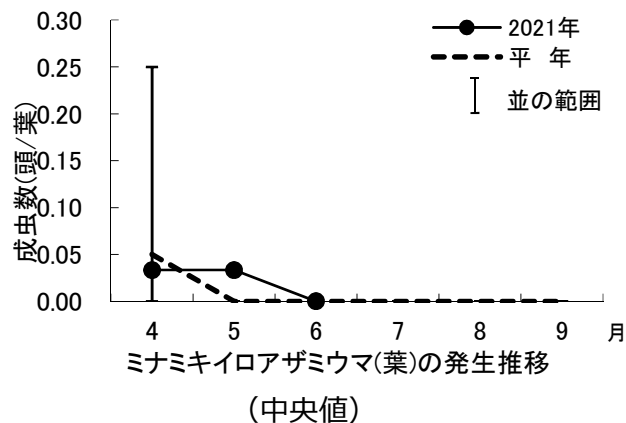
- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。

作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	→	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




・発病ほ場率 40.0% (平年 22.0%)



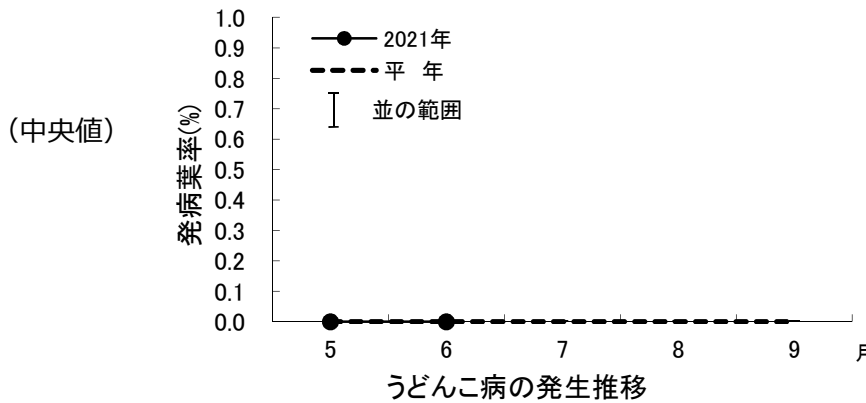
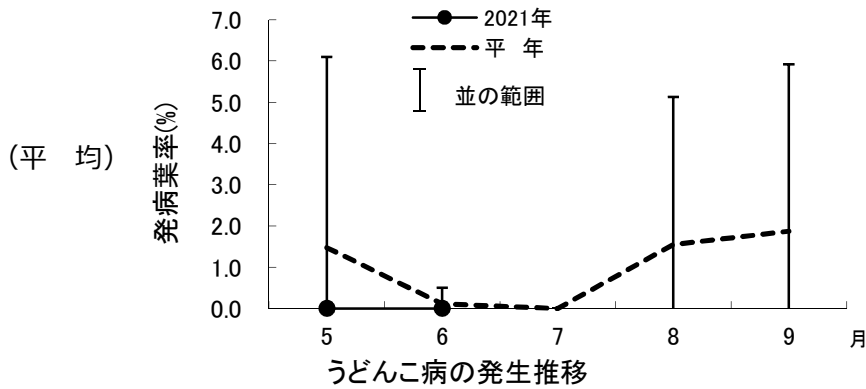
・発病ほ場率 0.0% (平年 8.0%)

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予 報	6 月からの増減傾向	→	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



・発生ほ場率0.0% (平年20.0%)

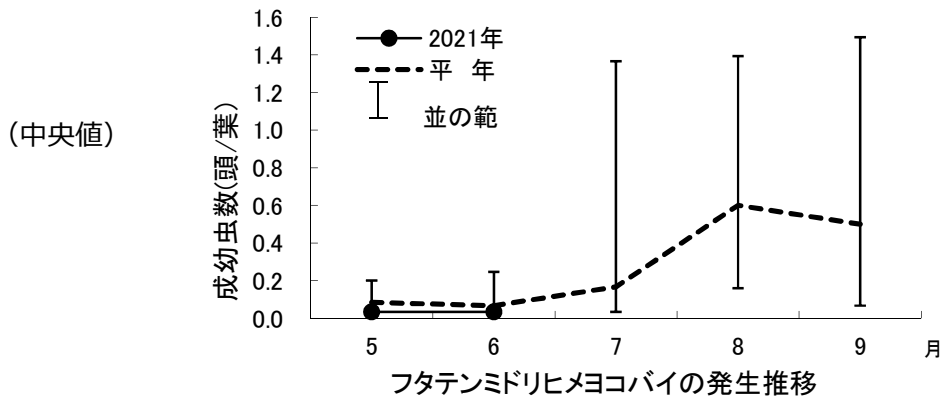
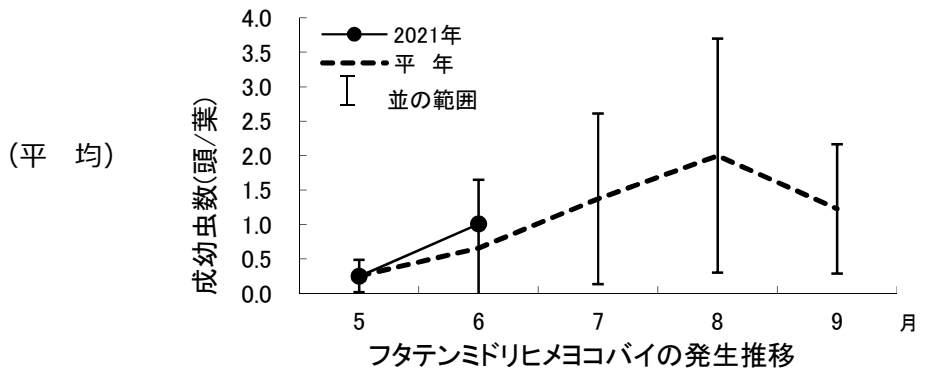
防除のポイント

- ・下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



調査結果



・発生ほ場率60.0% (平年62.2%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。




幼虫

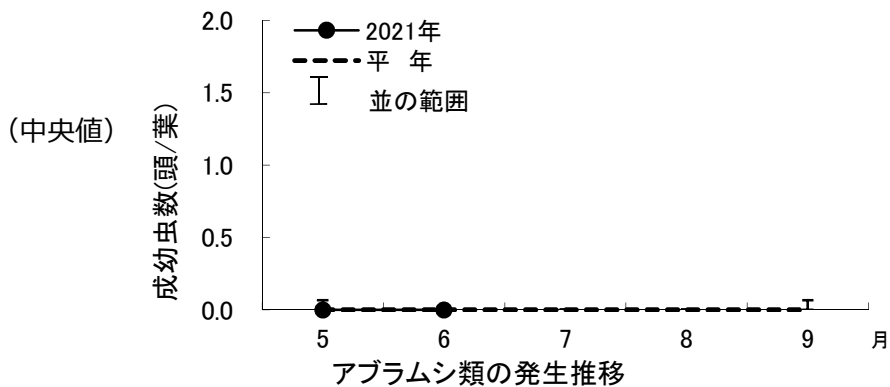
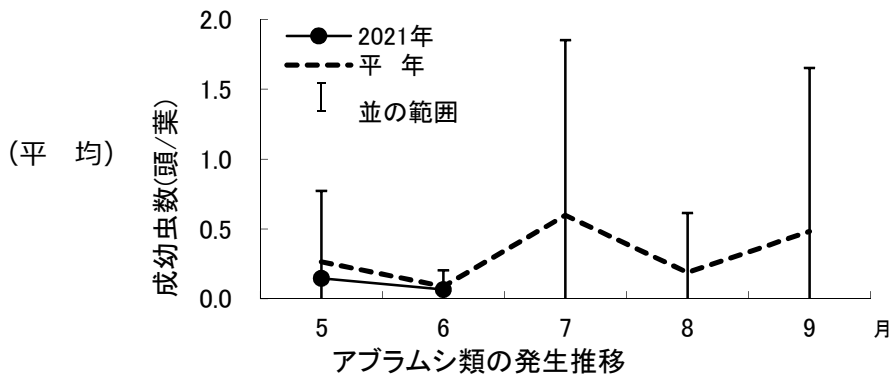


被害葉



作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠			平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果

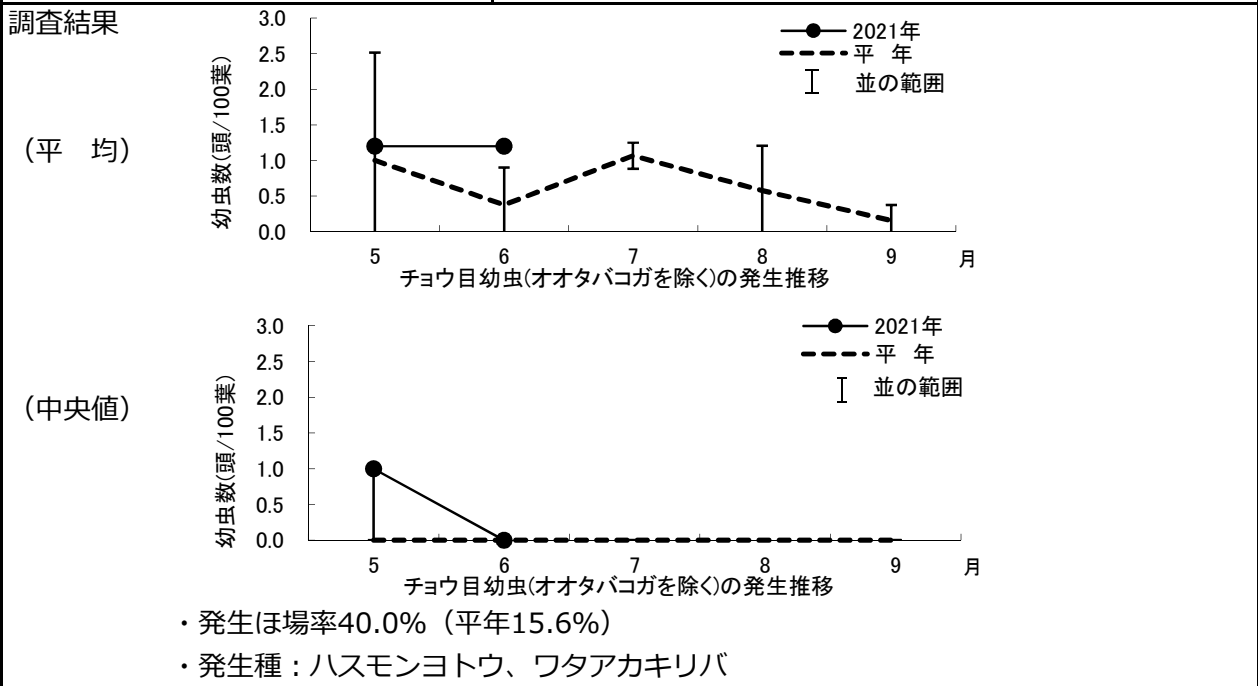


・発生ほ場率40.0% (平年26.7%)

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠			平年の発生量の推移 (↗)	



防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



ワタノメイガ



台湾キドクガ



フタガリコヤガ



クサオビリンガ



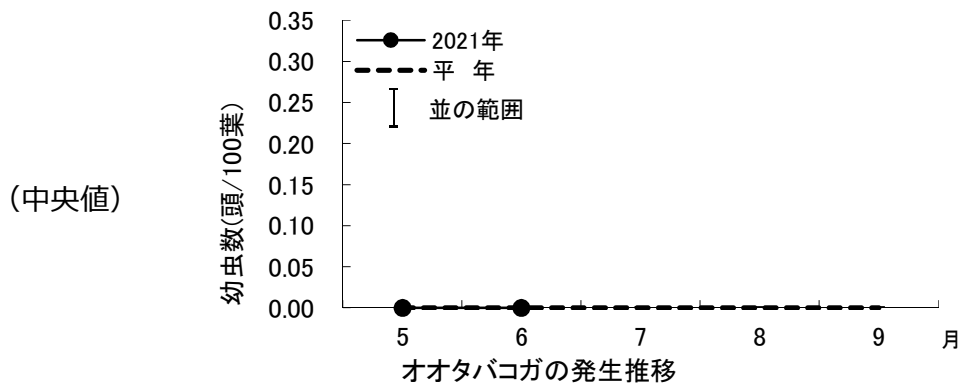
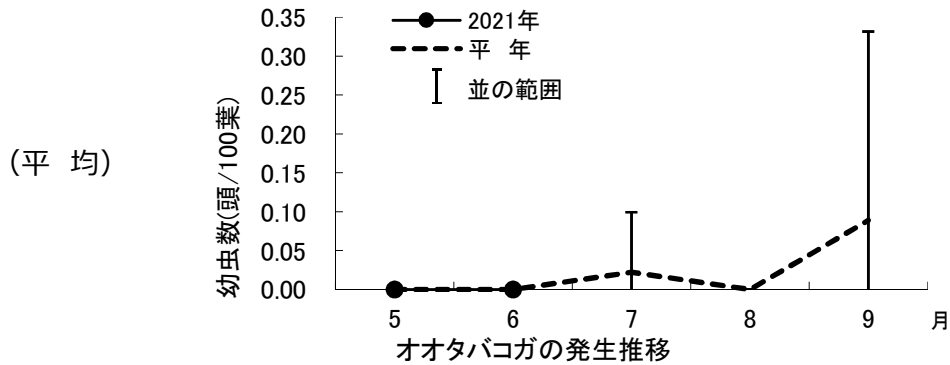
ハスモンヨトウ



ワタアカキリバ

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	オオタバコガ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



・発生ほ場率0.0% (平年0.0%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

